

車用酸素センサー品質保証

学生時代は大気汚染について研究した。地球規模レベルでの研究ができ、研究成果が幅広く世の中に寄与できるのでは、との考えからだ。大学院では西アフリカを対象とし、農薬が大気に与える影響を調査。発展途上国では安価な農薬を使っており大気に影響を及ぼしているのが実情だ。

凛としていきる

理系女性の挑戦

顧客の真意くみ取り対応



などに積極的に足を運んでいる日本特殊陶業に、なんとか情報収集し、就職した。大気汚染を根本的に食い止めるためには、汚染物質を出さないことが重要だとの思いから、車の排ガスを浄化するための酸素センサーを開発・製造している日本特殊陶業に、現在、自動車用酸素センサーの品質保証業務を行っている。酸素センサーは排ガスの空燃比コントロールに活用される。厳しい排ガス規制をクリアにするためには触媒の排ガス浄化率をできるだけ高く維持する必要がある。排ガス浄化率は理論空燃比付近で新製品の採用時に実際に実施される品質監査対応を指揮する。

最も高くなり、エンジン燃焼を理論空燃比周辺で制御すれば、クリーンなガスが排出される。客先に提出するさまざまな品質保証に関する書類の作成、新製品の採用時に実施される品質監査対応の指揮を執っている。具体的には各国のメーカーに対して、取引先管理や製造工程など、生産に関するあらゆる工程を説明する。直接お客さまと話して製品に携われることにやりがいを感じている。

一方で、難しいのは相手の真意を理解することだ。監査対応の際には私たちが通訳も含め、お客さまと社内との橋渡しを行う。覚えられた情報を単に直訳・伝達するのではなく、意図をくみ取った上で対応しなければならぬ。自社工程とお客さま要求の両方を根底から理解していないとできない業務だけに緊張がある。

目標は、書類作成やお話させて頂く際、お客さまの真意をくみ取った上で対応し、その結果、お客さまにご満足いただくこと。通訳者ではなく、あくまで自分は技術者でありたい。そのために各部署とのコミュニケーション

ヨンが欠かせない。尊敬する先輩の姿を見習いながら日々まい進していきたい。

企画協力・日本女性技術者フォーラム(JWF)

(火曜日に掲載)

▽
日本特殊陶業センサー事業部品質保証部
磯貝 直美
△



△プロフィール△ 14年
横浜国立大学環境情報
学府環境リスクマネジ
メント専攻修士修了
後、日本特殊陶業に入社。